

目指す姿を思い描きながら、  
わくわく楽しくチャレンジできるような私になりたい

星川 安之 様

保健師 榎本 晃子

90分の講義を、こんなにも集中力途切れずに聴講できたのはこれまでにあったのだろうか…と思えるほど、本当に引き込まれ、あっという間の時間でした。

資料がわかりやすく、秀逸なメタファー、そしてユーモアも交えつつ、でも本当にすさまじい、本当にすごいことを実現されてきているのに、どのお話も笑顔が絶えず、本当に心から楽しんで取り組まれていらっしゃったからこそその今なのだ、と感慨深く拝聴しました。

星川様のこの実践を、ぜひ、映画にしてほしい！と本当に思いました。

私は保健師ですが、恥ずかしながら、これまでバリアフリーやユニバーサルデザインしか知りませんでした。様々な介助用具などの専用福祉用具には馴染みがありましたが、いつも、デザインがおしゃれじゃないんだよな、もっと素敵なかっこいいものを開発してくれたらいいのに…と。使いたいと思えるかどうかのところにしか関心をもてておらず、誰にとっても使いやすいように、という発想に至っていなかった自分に気づかされました。

デザイン性のことはずっと気になっていたにもかかわらず、何のアクションも起こしたことがありませんでした。どこかで、「仕方がないでしょ」…と勝手に思っていたんだと思います。資格を持って働く身として、心底恥ずかしさと情けなさを痛感しました。

日常生活で利用している様々な物品の工夫について、たとえば、牛乳パックのことは知りませんでしたし、なによりエレベーター内の鏡がある理由を、星川様がおっしゃった、まさに身だしなみを整えるために設置されているのだろう…と思って今日までお気楽に暮らしていました。

穴があったら入りたい気分でした。

まちづくりのところで、「一番の結論は、最初からみんなで考えればいいんだ!!」とおっしゃったところは、本当にその通りだと思いましたが、それを実現できているのは、やはり星川様の志、お人柄というものがあってこそ、だろうと思

いました。

私は保健師なので、地域住民の皆さんと共に活動することが基本中の基本と教わって、心がけていましたが、やはり、個人の活動ではないハードルというか、公的な職員としての立場をわきまえつつの中での難しさを感じていました。ゴールへのコツのスライドは、なんとも明快でした！

また、ゴールは、というスライドのご説明では、感動で涙がこみ上げそうになりました。

本当におっしゃる通りだと思います。なぜ、どうして…と思うことはたくさん経験しました。でも、自分自身でさえ、例えば疾患のある方を目の前にすると、どうしてもその人を見ているつもりでも、その人のもつ疾患あつてのその人を見てしまいそうになる。

その人を見ているつもりでも、なにかあると、すぐにその人のもつ疾患や、可能性として考えられる疾患を想像してしまう。医療職としては、専門性の一つとして欠かせないことではあるのですが、そのフィルターや眼鏡が必要以上にかかっていないか、自分で気づくことができるように意識しつつもなんとも難しいなあ、と思っています。

星川様の講義を通して、それは難しいから…とか、それはちょっと保留にして…、とか、そういう思いに打ち勝てるようになりたいと思いました。目指したい姿を思い描きながら、苦労や努力をしながらも、わくわく楽しくチャレンジできるように私もなりたいと本当に思いました。

私に足りないのは、水平関係の持ち方だと思いましたので、職位や肩書きにとらわれすぎてものが言えない私からは早速卒業したいと思います！

本当にありがとうございました。